

タイトル 霰粒腫のマイボグラフィー所見について

英文タイトル *In vivo* observation of charazion by using non-contact meibography

演者

高木健一¹⁾²⁾, 吉川洋¹⁾, 川原周平²⁾, 森重直行³⁾, 有田量一¹⁾, 石橋達朗¹⁾

- 1) 九州大学大学院医学研究院眼科学分野
- 2) 独立行政法人国立病院機構 小倉医療センター
- 3) 山口大学大学院医学系研究科眼科学

【目的】

霰粒腫はマイボーム腺に生じる慢性炎症性肉芽腫であるが、生体での非侵襲的な観察手法は限られている。今回我々は非接触型マイボグラフィーを用いた霰粒腫の観察について検討したので報告する。

【対象と方法】

2013年1月～2014年4月に3施設で霰粒腫と診断しマイボグラフィーを撮影した15例(男性5例、女性10例、平均43.9±21.2歳、2～80歳)を対象とした。観察画像から、腫瘤の反射輝度、腫瘤周囲のマイボーム腺屈曲及び短縮について検討した。

【結果】

全例腫瘤内にマイボーム腺は描出されず、一様に高反射または低反射であった。腫瘤の反射は腫瘤外のマイボーム腺間隙と比較して高反射を呈するものが2例、間隙以下の低反射を呈するものが13例であった。周囲のマイボーム腺に屈曲がみられたのは15例中7例であった。腫瘤周囲のマイボーム腺の短縮は、15例中10例にみられ、平均4.5±2.1(1～8)本のマイボーム腺に短縮が確認された。

【結論】

霰粒腫はマイボグラフィー上、低反射を呈することが多い。また、腫瘤周囲のマイボーム腺は屈曲や短縮を呈することがある。